

第四期

中間決算報告書

自 2018年12月1日

至 2019年5月31日

漢方生薬研究所

○添付資料の目次

1. 中間決算に関する定性的情報

- (1) 経営成績に関する説明
- (2) 将来予測情報に関する説明

2. 中間財務諸表

- (1) 中間損益計算書
- (2) 中間貸借対照表

1. 第4期中間決算報告に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前会計年度		当会計年度		増減率
	自	2017年12月1日 至 2018年5月31日	自	2018年12月1日 至 2019年5月31日	
売上高		171,227,699		231,616,321	135%
通信販売事業		168,816,782		202,935,747	120%
遺伝子検査事業		-		17,503,815	-
モール事業		478,941		10,931,296	2282%
その他事業		1,586,808		245,463	15%
販売管理費		155,996,559		207,468,402	133%
営業利益		-26,695,163		-25,915,711	97%
経常利益		-27,487,038		-26,912,561	98%

自社通信販売事業部について

AmazonPayの導入で販路を開拓し、新規顧客の流入を増やしました。

※AmazonPayとはAmazonアカウントを利用した決済代行サービスです。

導入半年から利用者は全体の7%ほどで、約1,800万の売上となりました。

しかし、医薬品・サプリメントに対するWEB広告の規制強化の流れは続いており、広告出稿には依然として苦戦しております。

また、製薬メーカーの原材料不足により、一時新規の獲得を止めざるを得ない状況がありました。

上記の理由から上半期の通信販売事業における売上目標は、当初の予定を10%下回る結果となりました。

その他の施策としては決済方法を従来の方式から変更することで手数料のコストダウンを図りました。

そして、ロジスティックを医薬品の管理・保管に適した倉庫を保有する会社に変更しました。

薬機法等の規制が厳しくなる中、医薬品販売業者としての自覚をもって事業に取り組んでおります。

遺伝子検査事業部について

目標達成率が200%を超えた要因は新学期に向けた『子ども遺伝子検査』の売上が好調であったことと、セット購入が好評だったことが大きな要因になります。

また、テレビを始めとしたメディアでの遺伝子検査に関する話題が増え、5月以降は大人的能力遺伝子検査にも大きな反響がありました。

モール事業部について

今期から楽天市場内にて自社商品だけに留まらず、他社商品の販売を開始しました。

自社商品と比較すると原価率は上がりますが、取扱商品を増やすことでモール内での露出を増やし、自社への流入を促しています。

アマゾンの利用者はスピーディーな発送を求めるケースが多く、対応の早い出品者にはプライムマークが付与5月にプライムマークが付与されたことで5月は注文件数が297件から368件と約24%アップし今後の成長が見込まれます。

その他事業部について

現在の卸先は国内のクリニックのみにとどまっております。越境ECの開始に向けて現在調整中です。

オウセントクラン様が提供するBtoB向けのアロマディフューザーレンタルサービスの販売代理店契約を結びました。

WEB集客における業務委託、一部コンサルティングなどを行います。

1. 第4期中間決算報告に関する定性的情報

(2) 将来予想情報に関する説明

	期首予測	第4期通期見込み
売上高	586,822,552	657,909,745
売上原価	105,843,281	135,104,477
売上総利益	480,979,271	522,805,268
人件費	67,648,900	63,611,818
広告宣伝費・販売促進費	233,431,743	327,218,394
研究開発費・商品開発費・消耗品費	7,770,258	5,540,308
地代家賃・旅費交通費・通信費等	14,677,668	20,056,584
支払い手数料・IPO費用等	77,626,257	107,078,417
その他販管費及び一般管理費	31,045,698	30,669,550
販売費及び一般管理費	432,200,524	554,175,071
営業利益	48,778,747	-31,369,803
営業外収益	391,200	391,200
営業外費用	4,194,389	4,194,389
経常利益	44,975,558	-35,172,992
特別利益	0	0
特別損失	0	0
税引き前当期純利益	44,975,558	-35,172,992

売上高の通期見込みは、期首予測より約12%増の6億5千万に上方修正しました。

来期以降の経営計画を見据えて、上半期の未達成分をリカバリーするためにこのような目標を設定しました。

また、投資目的とした広告予算が大きくなるため、経常利益は▲3千5百万となっております。

このまま当期をマイナスで終える予定はなく、既存のお客様向けのキャンペーンや効果的な広告配信を行うための施策を現在準備しております。

当期決算を黒字で終えるよう、各予算の見直しや調整も進めております。

2.中間財務諸表
 (1) 中間損益計算書

	前会計年度		当会計年度	
	自	2017年12月1日 至 2018年5月31日	自	2018年12月1日 至 2019年5月31日
売上高		171,227,699		231,616,321
売上原価		41,926,303		50,063,630
売上総利益		129,301,396		181,552,691
人件費		29,018,168		29,377,118
広告宣伝費・販売促進費		71,064,076		109,387,663
研究開発費・商品開発費・消耗品費		5,616,852		2,531,057
地代家賃・旅費交通費・通信費等		8,987,537		8,382,650
支払い手数料・IPO費用等		26,728,401		43,009,442
その他販管費及び一般管理費		14,581,525		14,780,472
販売費及び一般管理費		155,996,559		207,468,402
営業利益		-26,695,163		-25,915,711
営業外収益		240,932		1,239,441
営業外費用		1,032,807		2,236,291
経常利益		-27,487,038		-26,912,561
特別利益		0		0
特別損失		0		0
税引き前当期純利益		-27,487,038		-26,912,561

2.中間財務諸表
 (1) 中間貸借対照表

	前会計年度		当会計年度	
	自	2017年12月1日 至 2018年5月31日	自	2018年12月1日 至 2019年5月31日
資産				
流動資産				
現金及び現金同等物		48,560,140		127,734,598
売掛金及びその他短期債券		38,619,685		34,414,743
その他短期金融資産		0		0
その他流動資産		31,743,666		66,600,991
流動資産合計		118,923,491		228,750,332
固定資産				
有形固定資産		1,875,963		2,534,568
無形固定資産		131,872,380		106,124,188
投資その他資産		23,996,584		13,334,256
固定資産合計		157,744,927		121,993,012
資産合計		276,668,418		350,743,344
負債及び資本				
負債				
流動負債				
買掛金及びその他短期債務		17,564,805		3,805,631
借入金		124,831,932		78,410,000
その他流動負債		14,329,857		60,381,272
流動負債合計		156,726,594		142,596,903
固定負債				
長期借入金		96,482,000		178,513,000
固定負債合計		96,482,000		178,513,000
負債合計		253,208,594		321,109,903
資本				
資本金		23,625,000		23,625,000
資本準備金		14,625,000		14,625,000
利益剰余金		-13,845,176		-7,671,559
自己株式		-945,000		-945,000
その他資本構成金		0		0
資本合計		23,459,824		29,633,441
負債及び資本合計		276,668,418		350,743,344